

吸収合併に係る事前開示書面

2022年2月14日

アステラス製薬株式会社
アステラスファーマテック株式会社

2022年2月14日

東京都中央区日本橋本町 2-5-1
アステラス製薬株式会社
代表取締役 安川 健司

東京都中央区日本橋本町 2-5-1
アステラスファーマテック株式会社
代表取締役 嶋 秀樹

吸収合併に係る事前開示書面

(吸収合併存続会社：会社法第 794 条第 1 項及び会社法施行規則第 191 条に基づく書面)
(吸収合併消滅会社：会社法第 782 条第 1 項及び会社法施行規則第 182 条に基づく書面)

アステラス製薬株式会社（以下「吸収合併存続会社」といいます。）及びアステラスファーマテック株式会社（以下「吸収合併消滅会社」といいます。）は、2022年4月1日を効力発生日とする吸収合併（以下「本件吸収合併」といいます）を行うことといたしました。よって、ここに本合併に関する事前開示をいたします。

記

1. 吸収合併契約の内容
2021年11月29日付で吸収合併存続会社と吸収合併消滅会社が締結した合併契約書は別紙1のとおりです。
2. 合併対価の相当性に関する事項
吸収合併存続会社と吸収合併消滅会社は、完全親子会社であることから、本件吸収合併に際して株式その他の金銭等の交付は行いません。
3. 合併対価について参考となるべき事項
該当事項はありません。
4. 吸収合併消滅会社の新株予約権の定めに関する事項
該当事項はありません。

5. 計算書類等の関する事項

【吸収合併存続会社】

(1) 最終事業年度に係る計算書類等に関する事項

吸収合併存続会社は、有価証券報告書及び四半期報告書を関東財務局に提出しています。最終事業年度に係る計算書類等については、金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム（EDINET）によりご覧いただけます。

(2) 最終事業年度の末日後の日を臨時決算日とする臨時計算書類等があるときは、当該臨時計算書類等の内容

該当事項はありません。

(3) 最終事業年度の末日後に生じた重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の会社財産の状況に重要な影響を与える事象の内容

該当事項はありません。

【吸収合併消滅会社】

(1) 最終事業年度に係る計算書類等に関する事項

吸収合併消滅会社の最終事業年度（2020年4月1日～2021年3月31日）に係る計算書類等は別紙2のとおりです。

(2) 最終事業年度の末日後の日を臨時決算日とする臨時計算書類等があるときは、当該臨時計算書類等の内容

該当事項はありません。

(3) 最終事業年度の末日後に生じた重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の会社財産の状況に重要な影響を与える事象の内容

該当事項はありません。

6. 債務の履行の見込みに関する事項

本件吸収合併後の吸収合併存続会社の資産の額は、負債の額を十分に上回ることが見込まれます。また、本件吸収合併後の吸収合併存続会社の収益状況及びキャッシュ・フローの状況について、吸収合併存続会社の債務の履行に支障を及ぼすような事態は、現在のところ予測されておりません。したがって、本件吸収合併後における吸収合併存続会社の債務について履行の見込みがあると判断いたします。

7. 事前開示開始日以降に上記事項に変更が生じたときは、変更後の内容を直ちに開示いたします。

以上



吸収合併契約書

アステラス製薬株式会社（以下「甲」という。）とアステラスファーマテック株式会社（以下「乙」という。）とは、次のとおり吸収合併契約（以下「本契約」という。）を締結する。

第1条（合併の方法）

甲及び乙は、甲を吸収合併存続会社とし、乙を吸収合併消滅会社として、吸収合併（以下「本合併」という。）を行う。

第2条（当事者の商号及び住所）

本合併を行う吸収合併存続会社と吸収合併消滅会社の商号及び住所は、以下のとおりである。

（吸収合併存続会社）： アステラス製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町2-5-1

（吸収合併消滅会社）： アステラスファーマテック株式会社

東京都中央区日本橋本町2-5-1

第3条（対価）

甲は、本合併において、乙の発行済株式全てを甲が所有しているため、乙の株主に対して、その株式に代わる金銭等を割当交付しない。

第4条（合併が効力を生ずる日）

本合併が効力を生ずる日（以下「効力発生日」という。）は、2022年4月1日とする。但し、本合併手続進行上の必要性その他の事由により必要な場合には、甲及び乙は協議のうえ、これを合意により変更することができる。

第5条（合併承認総会）

1 甲は、会社法第796条第2項の規定により、株主総会の承認を得ないで本合併を行う。

2 乙は、会社法第784条第1項の規定により、株主総会の承認を得ないで本合併を行う。

第6条（財産の引継）

乙は、2022年3月31日現在における貸借対照表その他同日現在の計算を基礎とし、これに効力発生日に至るまでの増減を加除した資産、負債及び権利義務の一切を効力発生日において甲に引き継ぐ。

第7条（会社財産の管理等）

甲及び乙は、本契約締結の日から効力発生日に至るまで、善良なる管理者の注意をもってそれぞれの業務を執行するとともに、資産及び負債を管理し、その財産及び権利義務に重大な影響を及ぼす行為を行う場合には、あらかじめ甲及び乙が協議し、合意のうえ、これを実行する。

第8条（合併条件の変更及び本契約の解除）

本契約締結の日から効力発生日に至るまでの間において、天変地変その他の事由により、甲若しくは

乙のいずれかの財産状態若しくは経営状態に重大な変動が生じた場合、又は本合併の実行に重大な支障となる事態若しくは著しく困難にする事態が生じた場合には、甲及び乙が協議し、合意のうえ、本合併の条件を変更し、又は本契約を解除することができる。

第9条（誠実協議）

本契約に定める事項のほか、本契約に定めのない事項その他本合併に関し必要な事項は、本契約の趣旨に従い、甲及び乙は協議のうえ、これを定める。

本契約締結の証として、本書1通を作成し、甲乙それぞれ記名捺印のうえ、甲がこれを保有し、乙はその写し1通を保有する。

2021年11月29日

甲 東京都中央区日本橋本町 2-5-1
アステラス製薬株式会社
代表取締役
安川 健司



乙 東京都中央区日本橋本町 2-5-1
アステラスファーマテック株式会社
代表取締役
嶋 秀樹



計 算 書

第 10 期

自 2020 年 4 月 1 日
至 2021 年 3 月 31 日

東京都中央区日本橋本町2-5-1

アステラス ファーマ テック株式会社

別紙2

貸借対照表

アステラスファーマテック株式会社 2021年3月31日現在 (単位:円)

科目	金額	科目	金額
資産の部		負債の部	
流動資産	32,860,408,321	流動負債	12,063,524,254
現金及び預金	-	買掛金	1,124,195,802
売掛金	3,625,911,725	未払金	9,055,343,880
商品製品棚卸高	1,491,474,856	預り金	25,760,686
半製品及び仕掛品	10,609,224,393	未払費用	193,653,851
原材料及び貯蔵品	8,212,160,732	賞与引当金	779,890,535
未収金	9,936,527	未払税金等	884,679,500
仮払金	1,122,746,000		
立替金	70,217,409		
預け金	7,718,710,679		
未収還付法人税	26,000		
固定資産	62,386,433,334	固定負債	1,211,491,911
有形固定資産	60,740,883,855	長期未払引当金	110,120,000
建物	25,449,541,217	退職給付引当金	1,101,371,911
構築物	2,799,367,993		
機械装置	12,701,898,991		
車輛運搬具	26,801,201		
工具器具備品	1,624,580,017		
土地	4,289,251,915		
建設仮勘定	13,578,906,632		
その他	270,535,889		
無形固定資産	241,309,164		
ソフトウェア	237,771,245		
施設利用権	3,537,919		
投資その他の資産	1,404,240,315		
投資有価証券	5,000,000		
出資金	1		
繰延税金資産	1,399,191,894		
その他	48,420		
資産合計	95,246,841,655	負債合計	13,275,016,165
		純資産の部	
		株主資本	81,971,825,490
		資本金	1,000,000
		資本剰余金	60,038,840,493
		資本準備金	25,000,000
		その他の資本剰余金	60,013,840,493
		利益剰余金	21,931,984,997
		その他利益剰余金	21,931,984,997
		繰越利益剰余金	21,931,984,997
		純資産合計	81,971,825,490
		負債・純資産合計	95,246,841,655

注) 1.有形固定資産の減価償却累計額 112,106,911,690円

2.有形固定資産の減損損失累計額 1,682,484,625円

損益計算書

アステラスファーマテック株式会社 自2020年4月1日 至2021年3月31日 (単位:円)

科目	金額
売上高	40,935,119,057
売上原価	37,691,851,615
売上総利益	3,243,267,442
販売費及び一般管理費	1,215,654,496
営業利益	2,027,612,946
営業外収益	75,307,411
仕入割引	1,558,815
不動産賃貸料	45,785,984
雑収入	27,962,612
営業外費用	50,748,858
雑損失	50,734,255
為替差損	14,603
経常利益	2,052,171,499
特別利益	73,713
固定資産売却益	73,713
特別損失	127,792,250
固定資産売却・除却損	127,664,438
その他の特別損失	127,812
税引前当期純利益	1,924,452,962
法人税、住民税及び事業税	562,600,530
法人税等調整額	112,396,471
当期純利益	1,249,455,961

株主資本等変動計算書

アステラスファーマテック株式会社 自2020年4月1日 至2021年3月31日 (単位:円)

	株主資本		資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	純資産合計
	資本金	資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			
					特別準備金	繰越利益剰余金		
当期首残高	1,000,000	25,000,000	60,013,840,493	60,038,840,493	-	20,682,529,036	80,722,369,529	80,722,369,529
当期変動額								
剰余金の配当				-			-	-
会計方針の変更による累積的影響額				-			-	-
当期純利益				-	1,249,455,961	1,249,455,961	1,249,455,961	1,249,455,961
計	-	-	-	-	-	1,249,455,961	1,249,455,961	1,249,455,961
当期末残高	1,000,000	25,000,000	60,013,840,493	60,038,840,493	-	21,931,984,997	81,971,825,490	81,971,825,490

個 別 注 記 表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

- (1) 資産の評価基準及び評価方法
 通常の販売目的で保有する棚卸資産
 原材料については先入先出法による原価法
 原材料以外については総平均による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
- ① 有形固定資産（リース資産を除く）…………… 定額法
 主な耐用年数は以下のとおりです。
 建 物 2年～50年
 構 築 物 2年～60年
 機 械 装 置 2年～17年
 車両運搬具 2年～8年
 工具器具備品 2年～20年
- ② 無形固定資産・（リース資産を除く）…………… 定額法
- ③ リース資産
 ・所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
 自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しています。
 ・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。
- (3) 引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金
 売掛金の債権に対する回収危険に対処するため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。
- ② 賞与引当金
 従業員の賞与の支出に備えて、支給見込額を計上しています。
- ③ 退職給付引当金
 従業員の退職給付に備えて、期末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務年数にわたり定額法により費用処理しています。数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務年数にわたり定額法により按分した額をそれぞれ発生翌期から費用処理しています。
- ④ 役員退職慰労引当金…役員の退職慰労金の支払に備えて、内規に基づく期末所要額を計上しています。
- (4) その他計算書類作成のために基本となる重要な事項
- ① 消費税等の会計処理
 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。
- ② リース取引の処理方法
 通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理により、リース物件とこれに係る債務をリース資産及びリース債務として計上しています。
- ③ 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
 外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。
- ④ 連結納税制度の適用
 アステラス製薬株式会社を連結親法人とする連結納税制度を適用しております。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

- (1) 当事業年度の末日における発行済株式の数 …………… 2,000株
- (2) 剰余金の配当に関する事項
 記載する事項はありません。

計 算 書
附 属 明 細 書

第 10 期

自 2020 年 4 月 1 日
至 2021 年 3 月 31 日

東京都中央区日本橋本町2-5-1

アステラス ファーマ テック株式会社

別紙2

1. 有形固定資産明細

2021年3月31日現在

[単位:円]

区分	資産の種類	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期末減価償却累計額	当期償却額	差引期末帳簿価額
有形固定資産	建物	62,517,497,491	1,423,303,915	263,760,952	63,677,040,454	38,227,499,237	1,782,767,748	25,449,541,217
	構築物	9,828,592,499	291,264,874	41,274,486	10,078,582,887	7,279,214,894	249,260,583	2,799,367,993
	機械装置	72,628,310,749	1,126,241,243	1,446,837,059	72,307,714,933	59,605,815,942	3,626,843,088	12,701,898,991
	車両運搬具	219,524,731	2,575,700	8,401,578	213,698,853	186,897,652	13,830,183	26,801,201
	工具器具備品	8,014,135,571	416,073,932	366,434,832	8,063,774,671	6,439,194,654	706,869,252	1,624,580,017
	土地	4,289,251,915	—	—	4,289,251,915	—	—	4,289,251,915
	建設仮勘定	4,763,073,442	10,913,267,677	2,097,434,487	13,578,906,632	—	—	13,578,906,632
	有形リース資産	—	—	—	—	—	—	—
	その他	488,451,200	151,959,000	1,585,000	638,825,200	368,289,311	53,808,938	270,535,889
	計	162,748,837,598	14,324,686,341	4,225,728,394	172,847,795,545	112,106,911,690	6,433,379,792	60,740,883,855

2. 無形固定資産明細

[単位:円]

区分	資産の種類	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	期末減価償却累計額 又は償却累計額	当期償却額	差引期末帳簿価額
無形固定資産	水道施設利用権	8,685,118	—	—	8,685,118	8,685,118	—	—
	電気ガス供給施設利用権	9,031,415	—	—	9,031,415	5,493,496	314,238	3,537,919
	ソフトウェア	926,491,483	80,477,375	—	1,006,968,858	769,197,613	170,876,807	237,771,245
	計	944,208,016	80,477,375	—	1,024,685,391	783,376,227	171,191,045	241,309,164

3. 引当金の明細

[単位:円]

区 分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
賞与引当金	727,507,305	1,843,109,333	1,790,726,103	779,890,535
退職給付引当金	846,943,027	556,842,724	302,413,840	1,101,371,911

(注) 1. 引当金の計上理由及び額の算定方法については、個別注記表のなかの「重要な会計方針に係る事項に関する注記」にて記載している。

4. 販売費及び一般管理費の明細

[単位:円]

科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
交際費	1,852		保険料	5,882,694	
支払手数料	442,549,550		公課	100,100	
運送費	34,213,730		寄付金	272,364	
旅費交通費	20,179,230		団体会費	500,000	
賃借料	11,407,572		通信費	1,094,532	
給料手当・賞与	209,267,115		消耗品費	65,827,865	
福利厚生費	97,042,960		研修図書雑誌費	8,567,485	
退職金給付費用	68,781,308		雑費	212,509,432	
減価償却費	37,456,707				
			計	1,215,654,496	

アステラス ファーマ テック(株)事業報告

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

1. 事業の状況

当社（以下、ATEC）は、アステラス製薬株式会社グループ（以下、アステラスグループ）の医薬品製造会社として、研究開発段階の治験薬を含む原薬・製剤の製造や技術開発を行うとともに、アステラスグループの中軸となる医薬品の製造を担い、国内のみならず世界市場にも供給しております。

2020年度も、「モノづくり総合力」の向上をスローガンに掲げ、製品ライフサイクル全体を通じた管理戦略の実践に取り組みました。戦略課題として、「1. 管理戦略構築への input と 新製品管理戦略の立ち上げ」、「2. 管理戦略の評価&堅牢性の向上とモニタリング&コントロール」、「3. 管理戦略の移管・支援」、「4. 確固たる運営基盤強化」に取り組みました。

当初計画した各種課題を確実に実践しながら、COVID-19 への対応を万全に行うことで安定供給を継続達成しました。また、新たに発生したアステラス製薬との統合に向けた対応に関して、年度内に実施すべき課題を完遂しています。

(1) 管理戦略構築への input と 新製品管理戦略の立ち上げ

（開発スケジュールに沿った治験薬の供給）

Fezolinetant (A2693) の開発への貢献と技術移転準備において、中国向け申請用安定性試験用サンプル製造及びスケールアップ検討を完了しています。また、海外向け品の外観検査について、AQL (Acceptance Quality Level) での抜き取り検査を標準作業とした SOP の作成等を通じて、早期管理戦略策定ノウハウの蓄積と、新製品の生産体制をフレキシブルで高効率化する仕組みを構築しました。

（新製品のスムーズな立上げ）

Launch Excellence を拡充し、イクスタンジ錠内製化やゾスパタの中国承認の最速プランに向けた包装生産の立ち上げなど、最新の承認・申請制度に対応するノウハウ構築を進めました。

(2) 管理戦略の評価&堅牢性の向上とモニタリング&コントロール

マイカミン/ファンガードのアウトソース先支援による安定供給やスマイラフの販売上振れへの確実な対応など、物量変動や想定外トラブルにも対応可能なフレキシブルな生産体制を構築することで安定供給を具現化しています。

COVID-19 への対応については、事業場内の感染防止対策の徹底や原料・資材調達の工夫等、長期化も見据えたリスクへの対応を継続して進めるなど、総力をあげて製品供給の安定化に取り組んでいます。

(3) 運営基盤強化

Q10 活動を軸にした Quality Culture 醸成に向けた各種取り組みや、バイオ PEPPER PJ を立ち上げ各サイト及び物性研のナレッジ活用と無菌に精通した担当者育成を推進しました。

アステラス製薬の統合に関して、取引先や従業員向けの対応を丁寧を実施するとともに、22年4月の組織統合に向けた各種ワーキングチームを立ち上げました。

(4) ESQD 結果

- E（環境）：法定基準の逸脱の発生はありませんでした。
S（安全）：休業災害の発生はありませんでした。
Q（品質）：製造品質に起因する回収の発生はありませんでした。
D（納期）：製品の欠品発生はありませんでした。

(5) 営業成績

当期の売上高は409億35百万円(前期比107.4%)、売上原価は376億92百万円(前期比109.8%)となり、売上総利益は32億43百万円(前期比85.6%)でした。販売費及び一般管理費は、12億16百万円(前期比67.6%)、営業利益は20億28百万円(前期比101.8%)となりました。

営業外損益の部では、営業外収益が75百万円(前期比103.0%)、営業外費用が51百万円(前期比100.3%)となり、経常利益は20億52百万円(前期比101.9%)でした。

特別損益の部では、特別利益が7百万円(前期比1.6%)、特別損失が1億28百万円(前期比19.9%)でした。

税引き前当期利益は19億24百万円(前期比139.8%)となり、法人税等として法人税額及び税効果会計による法人税調整額の合計6億75百万円を計上しましたので、当期利益は12億49百万円(前期比149.8%)となりました。

(注：本事業報告の記載金額は、表示単位未満の端数を四捨五入しております。)

(6) 要員数

昨年度末の要員数959名(正社員789名、契約社員170名)から49名減少して、2021年3月末では総要員数910名(正社員764名、契約社員146名)となっています。

2. 会社の現況

(1) 事業内容

- ・国内向け医療用医薬品・原薬の受託製造
- ・海外向け医療用医薬品・原薬の受託製造
- ・治験用医薬品・原薬の受託製造
- ・開発用原薬の受託製造

(2) 事業所

- ・本社 東京都中央区日本橋本町2丁目5番1号
- ・高萩技術センター 茨城県高萩市赤浜160番地2
- ・富山技術センター 富山県富山市興人町2番178号
- ・焼津技術センター 静岡県焼津市大住180番地
- ・高岡工場 富山県高岡市戸出栄町30番地

(3) 株式の状況

- ① 会社が発行する株式の総数：8,000株

- ② 発行済株式の総数 : 2,000 株
 ③ 株主 : アステラス製薬株式会社 2,000 株 (議決権比率 100%)

(4) 従業員の状況

- 従業員数 (就業員数) : 910 名
 (2021 年 3 月 31 日現在。休業者、研修派遣者を除く)

(5) 親会社との関係

- ① 親会社の名称 : アステラス製薬株式会社
 ② 所在地 : 東京都
 ③ 資本金 : 103,001 百万円 (2021 年 3 月 31 日現在)
 ④ 主要な事業内容 : 医薬品の製造・販売及び輸出入
 ⑤ 議決権の被所有割合 : 100%

(6) 事業成績及び財産の状況の推移

区分	2017 年度 (第 7 期)	2018 年度 (第 8 期)	2019 年度 (第 9 期)	2020 年度 (第 10 期)
売上高 (百万円)	50,706	49,982	38,112	40,935
営業利益 (百万円)	3,333	2,605	1,992	2,028
経常利益 (百万円)	3,368	2,616	2,015	2,052
当期純利益 (百万円)	1,573	△800	834	1,249
1 株当たり当期純利益 (円)	786,500	△400,000	417,000	624,500
総資産 (百万円)	93,671	91,256	92,275	95,247
純資産 (百万円)	80,688	79,888	80,722	81,972

(7) 会社が対処すべき課題

医薬品のみならず、NM(ニューモダリティ)を含むメディカルソリューションの早期商用化と、製品ライフサイクル全域に渡る安定供給に貢献していくため、モノづくりに関するケイパビリティを極め、「製品化統合力」の向上を追求し続けます。

2021 年度も 2020 年度に引き続き、管理戦略の実践と深化をベースとして、以下の戦略課題を設定し取り組みます。

1. 管理戦略構築への input と新製品管理戦略の立上
2. 管理戦略の評価&堅牢性の向上とモニタリング&コントロール
3. 管理戦略の移管・支援
4. 利益貢献
5. アステラス製薬との組織統合によるシナジー追求


(8) 取締役及び監査役

会社における地位	氏名	担当又は主な職業
代表取締役	中手 利臣	アステラス ファーマ テック株式会社 社長
取締役	川迫 哲也	アステラス製薬株式会社 製薬技術本部
取締役	林 明日香	アステラス製薬株式会社 経営企画部
監査役	青柳 豊	アステラス製薬株式会社 税務部

以上

2021年4月21日

アステラスファーマテック株式会社
代表取締役社長 嶋 秀樹 殿

監査役 青柳 豊 

監査報告書の提出について

会社法第389条第2項の規定に基づき監査報告書を作成しましたので、別紙のとおり提出いたします。

以上

監査報告書

2020年4月1日から2021年3月31日までの事業年度に係る計算書類及びその附属明細書を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

なお、当会社の監査役は、定款第24条に定めるところにより、監査の範囲が会計に関するものに限定されているため、事業報告を監査する権限を有しておりません。

1. 監査の方法及びその内容

監査役は、取締役等から会計に関する職務の執行状況を聴取し、会計に関する重要な決裁書類等を閲覧いたしました。また、会計帳簿又はこれに関する資料を調査し、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表及びその附属明細書)について検討いたしました。

2. 監査の結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2021年4月21日

アステラスファーマテック株式会社

監査役 青柳 豊 